

第11回 三重河川流域委員会 議事要旨（案）

日時：平成27年3月19日（木） 10:00~12:00

場所：プラザ洞津 高砂の間

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

(1) 第10回三重河川流域委員会の議事要旨の確認（資料—2）

第10回三重河川流域委員会の議事要旨について報告し、確認された。

(2) 雲出川水系河川整備計画の報告について（資料—3）

雲出川水系河川整備計画の報告について、説明して確認された。

(3) 宮川水系河川整備計画（骨子）について（資料—4、資料—5、資料）

- ・資料—4 補足説明のほうでは、宮川本川は河川整備計画において、河道掘削の予定はないと書いてあるが、資料—5の宮川水系河川整備計画（骨子）の適切な掘削を実施するとなっているが教えて欲しい。（資料-5 P22）

→宮川本川について、整備メニューとしては堤防整備というだけで河道掘削はないが、一方、勢田川については、河道掘削があるということである。

- ・素案のほうの1—9、勢田川の流下能力（図1. 3）を見ると、勢田川についてはまだ流下能力が不足しているということだが、これは堤防が完成しても、あるいは他の河道掘削と横断工作物の改築という対策を行った上でも、流下能力不足が生じることなのか。

→河道掘削すれば目標流量を流せるようになる箇所であり、整備計画のメニューを実施すればこれが解消できるというところである。

- ・正常流量を2段階に分けたその理由は何か。根拠等が何かあって、4月、5月と9月からが $6\text{ m}^3/\text{s}$ 、それ以外が $4\text{ m}^3/\text{s}$ としているが、この理由は何か。また、関係機関と調整、連携とあるが、これはどういう組織構造になっているのか、具体的には宮川の発電は中電に譲渡したということを知っているが、中電も正規メンバーとして調整機関に入るのか。

→理由は、水田等のかんがい期と非かんがい期ということで、動植物の生息環境に必要な量から $4\text{ m}^3/\text{s}$ で決めている。また、関係機関と調整、連携して既存施設の有効活

用に向けた検討を進めるということで、中電も含めて関係するところの機関全て、調整、連携して検討を進めたいと考えている。

- 骨子案の19ページ、素案のほうでいうと4—15、河川環境の整備のメニュー案多様な生き物の生息環境を保全するということを念頭に置きながら、単純に1つの種類だけ何か挙げてしまうと、それだけでもって全部整備してしまうような印象を受けるので、もう少し多様な生息環境というものを強調してほうが良いという印象を受ける。
→素案のほうでは、基本的には多様な環境を保全していくということにしている。4—15ページの(2)で、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全ということで書いており、多様な環境が保全するようにモニタリング等していきたいと考えている。
- 19ページに河川利用の推進とあるが、この宮川堤の桜堤の場所を見たときに、江戸時代の治水の堤が幾つか残存しており、こういう文化が必要だというようなことをPRするような整備計画があっても良いのではないかと。
→案の4—12ページの水防に関する連携・支援のところ、水防に関する連携・支援のところであるが、5行目のところに、また、住民の防災意識向上のため、過去の災害の経験、知識を生かした啓発活動を推進するとともに、地域住民、学校、企業等が災害に対する意識を高めていくというような形で今書いているが、PR部分については、今後検討させていただければと考えている。
- 骨子の12ページの堤防強化、地震対策、河道掘削というふうに書かれているが、玉城町の方は堤内地のほうで漏水があり非常に怖いとこのことを聞いているので、特にここに浸透対策と書いてあるのは、対策をしていく意味で良いのか。
→漏水等があるところは優先的に対策を講じていく予定である。

(4) 鈴鹿川の現状と課題について(資料7)

- 頭首工の下流で河床低下が起こっているということなので、どのように縦断形というのを設定するのかが非常に難しいと察する。最深河床高は下がっているが、低水路だけが深掘れしているような印象もあり、横断形状というのも少し見る必要があると考える。
→いただいた意見をご参考に検討を進めていきたいと考える。実際、地下水位等は、はかっているところのデータを取り寄せることをしているため、検討に活用していく。
- 資料の24ページ、鈴鹿川の派川の河口には、非常に砂州が発達しており、流下を阻害していると考え。ただ、この砂州が生態系に非常に重要な役割を担っており、シロチドリの繁殖地がこの砂州の中にはある。また、ここには記載されていないが、コ

アジサシという世界的にも希少な鳥の繁殖地もある。最近の情報としては、アカウミガメの産卵地としてもこの砂州が利用されているという状況もあるため、砂州を今後どのように考えていかれるのかというのは、ご検討いただきたいと考える。

(5) 今後の予定 (資料-8)

鈴鹿川水系及び、宮川水系河川整備計画策定への今後のスケジュール(案)について説明を行い、了承された。

4. 閉会